

建設地は、谷田部区でお願

いをお願いしたく、建設場所の変更は次の候補地住民に不信感を与え、同意までにはこれまで以上の困難や期間を要すると考えられる。計画を白紙撤回せよという要求については、環境アセスメントを含めて、歩みだしており真意がわからない。市の方としても、解決するために誠心誠意いろいろと、話し合いをさせていた

Q 尾崎区から反対がある

なかで、クリーンセンターの平成6年度に用地買収を行い、9年度に供用開始という計画は予定どおり進めるのか。また、別に建設用地を見つけられないか。

A 現在の清掃センターの老朽化が進んでおり、

ぜひとも早急に計画を進めたい。

建設同意を得た谷田部区以外には現在のところ建設候補地が見当らず、谷田部区での建設を認めて欲しい。

不燃物収集

Q 本年度からスタートした不燃物の分別収集に

ついて、現在の状態は、また、

成果はどうか。

各種団体が実施する廃品回収について、業者がアルミ缶雑誌の引き取りを断っている。市としての対応は、ほぼ百パーセントに近い家庭で指定ごみ袋が使用されている。氏名の記入もかなりの家庭でなされている。

ごく一部に、分別方法の誤りがあるが、市職員による巡回指導で啓発を図っている。

指定袋導入により、一ヶ月当たり埋め立てごみは約三十三トンの減少、資源ごみは、約十五トンの減少となっており、ごみの減量化と最終処分場の延命化が図られている。

雑誌類は再生会社の取引価格が低く、また引取り総量も制限されていることから、取扱品目から除外されているが、今後出てくる量や市場の状況などを勘案しながらしかるべき対策を行っていかなければならぬと考えている。

路線バス

Q 地域活性化の上で見落

としてではない点が、地域公共交通機関の果たしている役割である。

長い間地域住民の足として活躍してきたバス路線の今後の対応について伺いたい。

A 本市における路線バス

のうちの今回路線の対象となつていないのは3系統である。一地域のごく少数の限られた方々の利用とはいえず、市民の足としての公共交通機関が縮小されることはまことに寂しいことであるが、利用実績から見ると極めて厳しい状況であると受け止めている。

この路線の存続をするためには、小浜市のみならず上中町、大飯町とも協議を重ねながら対応していきたい。

ただそれぞれ自治体の事情、思惑などもあり必ずしも樂觀出来ない状況にある。というふうな受け止めているのが現状である。

Q JRバス路線変更につ

いて現在湯岡交差点から警察署の前を通って小浜駅へと走るルートとなっているが、ガード下をくぐり健康管理センター、県立図書館若狭分館、続いて国の合同庁舎、第二中学校、そして市役所から大手通りのルートのほうが利便性から考えても価値があるのではないか。この部分の路線変更をJRに要請しては

どうか。

A 警察署交差点から東環

状線、小浜縦貫線を経由する一部路線変更については、通学生徒や通勤者などの利便性の見地と交通のふくそうする駅前一体の緩和などの目的で西日本JRバス株式会社と協議を進めている。しかし現在南川大橋の架橋工事のさなかであり、このコースが一時通行止めの措置がとられており、この工事が完了した段階で正式に申込れをしたい。

国際交流

Q 国際交流について昭和

61年には福井市の県民会館に国際交流センターが開設され、平成5年5月には敦賀市におきまして、国際交流嶺南センターもオープンいたしました。本市においても急速に進む国際化の流れに対応できるよう国際交流対策室、あるいは課または係を設置する考えはないか。

また外国人向けの生活ガイドブック等を作成する考えはないか。

A 国際交流の窓口として企画課の中にその係を設けてあり、研修を終えた職

員がその任に当たっている。対策室の設置については、職員の数増につながることに

なり現状ではやや時期尚早ではないかと考える。

外国人のガイドブックについては、ごみの分別について英文のチラシを配布して周知に努めている。

道路計画

Q 近敦線について、舞鶴

東岡津間の施行実施計画、さらに小浜敦賀間の整備計画についての現況を説明して欲しい。また、本路線に対する用地獲得についてどのような方針で取り組むかその決意を。

A 岡津敦賀間の整備計画

への昇格については、次期国土開発幹線自動車道建設審議会において審議されるものと思われる。詳細な点はルート公表後より具体化させて、ベストなルート、インターとなるよう調整していきたい。

自動車道整備の最大の課題は、用地の確保がスムーズに進むかどうかという点である。小浜市としても、県をはじめ関連機関との連携を密に庁内

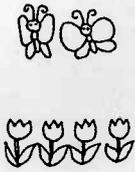
体制の整備を進め、用地買収についても協力していきたい。

Q 小浜西部の道路の改良計画について27号線のバイパスについてどのような考え方を持っているのか。

また、将来近敦線が岡津まで開通し仮インターができた場合、若狭西街道が供用する段階において定期的に整合すると考えているか。

A 広域農道整備事業と県単事業を含めた他事業の2本立でもって道路網の整備を計画している。平成7年度採択に向け若狭西街道促進協議会と連携をとり全力を傾注していきたい。

また、近敦線の岡津開発インターの供用開始と西街道との整合性については西街道の現在の計画では、平成16年の完成予定となっている。岡津開発インターの供用開始は早くとも17年と予想している。ただどのような形で連絡できるかは、お互いの実施計画ができた段階で有効な連携をするよう関係機関と協議を進めていきたい。



リゾートライン

Q リゾートラインについて、多くの方々の署名運動が行われその結果県知事の理解を得て、今年の秋には県の調査発表が出るそうだが今後の運動方法について聞こう。

A リゾートライン計画について、現在福井県が進めている事業化可能性調査結果を踏まえ事業主体、資金調達、建設及び運営資金あるいは推進組織の設置問題等が課題となってくる。県の指導を受けながら嶺南関係市町村と十分協議して対処していきたい。

また、署名運動が展開され地域住民の熱意は一段と高まりを見せ、官民一体となって粘り強く関係機関等への要請、新しく生まれ変わる若狭地域のために是が非でも実現させたいと考えている。

公共下水道

Q 平成3年3月供用開始以来3年を経過した公共下水道の加入率向上にどのような広報活動と加入勧奨が行われているのかお伺いする。

A 供用開始から3年目になる区域の方々に再三にわたり水洗化へのお願、アメニティ資金の利用などについても市政広報やチラシをつくって周知してきた。

本年度は一步進んで供用開始から3年を経過している未水洗化世帯を対象に戸別訪問をし、水洗化へのお願いと各家庭の今後の計画等について聞き取りをしている。

このことは、水洗化や排水設備の設置こそ維持管理財源確保のキポイントであることとを認識し、加入率の保進に

今後も努力していきたい。

入札制度

Q 入札制度の改善策が県をはじめ各自治体でも検討結果が発表されている。小浜市においても、入札制度を改善させる必要があると考

えるが、指名制度をやめ一般競争入札方式を中小業者保護の配慮を加えた上で取り入れなければならぬと考えるが見解は。

A 県においては今年度より制限つき一般競争入

札の試行に踏み切った。制限つき一般競争入札は発注者の裁量が入らず透明性が高いが、高い技術力を必要とする大規模な工事となっている。しかし本市のように中小規模の業者が共存しているところでは、地元建設業者の健全育成の方針を堅持し、現行の指名競争入札を基本とし、透明性、公平性を確保し、制限つき一般競争入札については試行に入った県、福井市などの実施状況を参考にしながら検討していきたい。

嶺南市町村議長会定例会

平成6年7月21日、本市において嶺南8市町村の正副議長出席のもと嶺南市町村議長会の定例会が開催され、経過報告のあと議案審議に入り提出された8議案すべて採択されました。

小浜市提出の議案は次のとおりであります。

- ◎ 近畿自動車道敦賀線の早期実現について
- ◎ 北陸新幹線若狭ルートの早期実現について
- ◎ 琵琶湖・若狭湾リゾートラインの建設並びに小浜線の電化及び湖西線(永原・敦賀間)の直流電化促進について

行政視察

管外行政視察

- ◆ 総務常任委員会
5月11日～13日
沖繩県(宜野湾市・糸満市)
- ◆ 建設常任委員会
7月13日～15日
北海道(釧路市・根室市)
- ◆ 産業経済常任委員会
5月24日～26日
三重県(桑名市・鳥羽市)
- ◆ 教育民生常任委員会
6月28日～30日
岐阜県(各務原市)
益田広域事務組合
富山県(高岡市)

行政視察受入

5月24日	長崎県波佐見町議会	8人
5月25日	岩手県釜石市議会	9人
5月26日	鹿児島県鹿屋市議会	8人
6月28日	東京都昭島市議会	9人
6月29日	新潟県五泉市議会	8人
7月6日	三重県鈴鹿市議会	10人
7月7日	静岡県藤枝市議会	14人
7月12日	兵庫県津名町議会	13人
7月13日	岩手県陸前高田市議会	7人
7月18日	神奈川県小田原市議会	9人
7月25日	熊本県菊池市議会	6人

決議

「交通マナー日本一小浜」をめざす都市宣言に関する決議

交通マナーを確立し、悲惨な交通事故から尊い生命と財産を守り、快適で安全な交通社会を確立することは、市民の共通の願いである。

本県は、七年連続して死傷者数百人を突破したほか、人口十万人当たりの死傷者数でも、数年来全国ワーストテンの上位に位置するなど不名誉な状況にある。

このような現状を打破するため、県では本年四月から広く県民に交通マナーの向上を訴え、交通死亡事故を減少させて福井県のイメージアップを図るため、「交通マナー日本一」をめざす運動を展開中である。

よって、市民総ぐるみで思いやりと譲り合いの精神を重んじ、正しい交通ルールと交通マナーを実践し、本市を訪れる人たちに好感を持たれ、かつ秩序ある交通社会の実現のため「交通マナー日本一小浜」をめざす都市宣言を決議する。

平成六年六月二十一日

小浜市議会

【表彰状】

〔永年在職二十年表彰〕

全国市議会議長会
北信越市議会議長会

深谷嘉勝議員

〔永年在職十五年表彰〕

全国市議会議長会
北信越市議会議長会

伊勢謙次郎議員

【感謝状】

〔議長在職功労〕 福井県市議会議長会

村上一司議員

〔副議長在職功労〕 福井県市議会議長会

宮川建一議員

今定例会の開会に先立ち、全国市議会議長会、北信越市議会議長会より、永年在職議員に対する表彰状並びに前議長・前副議長に対する在職功労の感謝状の伝達が、議場において行われました。